

【運営方針5】効率的・効果的な運営

※下線部は新規取組みまたは前年度から拡充した取組み

【評価基準】 A:大きく上回る B:上回る C:概ね達成 D:やや下回る E:下回る

〔基本方向〕効率的な情報共有体制の確保と効率的な業務執行体制づくり

評価項目	評価目標	具体的方策	取組状況	自己評価	次年度に向けた改善策
1 職員の教育能力の向上	(1) 職場研修の実施回数: 6回	① 研修会への参加及び開催【継続】 指導職員の教育能力の向上のため、研修会への参加した職員による報告会や指導経験豊富な職員の講話による職場研修会を開催する。なお、現在行っている指導職員会議での開催では十分な時間が取れない場合もあることから、その場合には、担任会議等、別の会議で開催する。	・ 指導職員会議開催等の機会をとらえて、外部講師を招きながら、教育手法、卒論プロジェクト等に関する研修を実施した。(6/21、7/21、9/21、1/21、1/25、2/15) (主なテーマ:授業づくり・授業の進め方、卒論プロジェクトの取りまとめ方 等) * 目標6回に対し、6回の実績があったことから「C」評価とする。	C	・ 引き続き、経験豊富な職員等を講師に職場研修を実施しながら学生指導のレベルアップに努める。 ・ 県庁担当課と検討し、普及指導員向けの研修に参加する機会を増やすとともに、現地調査で得られた新技術や市場動向等に関する情報を報告、共有する取組みを行う。
	(2) 公開授業の実施: 2回	② 公開授業への参加及び開催【継続】 教育能力の向上を図るため、校内で公開授業を行い、職員間で講義や実習の手法等について相互に学び合う。	・ 指導経験の浅い指導職員の授業を素材に公開授業を実施し(10/11)、終了後、意見交換を行う中で、指導手法の共有による指導力向上に務めた。 ・ 農場・施設運営のノウハウを共有するため、指導職員参集のもと、ASIAGAP認定を受けている稲作経営学科の運営・指導方法について共有を図った。(11/7) * 内部の公開授業等を2回実施したことから、「C」評価とする。	C	・ 引き続き新任指導職員とベテラン職員による公開授業の実施により、職場全体の指導方法の改善を図る。 ・ 農場・施設運営の手法についても、互いの学科における工夫や課題を共有することで、それぞれの教育及び職員の資質向上に活かしていく。
2 組織的な運営体制の強化	(1) 設備等利用のルール化: 1件	① 各種会議の開催【拡充】 経営会議を毎週開催し、学校運営の基本方針や懸案事項に対する対応方針を決定し、職員会議や指導職員会議等において情報共有するとともに、必要に応じて教授会等で具体的な進め方を検討し、課題等に迅速に対応する。 また、令和5年度新たに、「農場施設管理運営部会」を設置し、校内はもとより東北農林専門職大学(仮称)との間で、圃場及び機械・施設等の円滑な利用を検討する。	・ 経営会議(メンバー:校長、副校長、事務局長、教務・調整担当等)の毎週開催、職員会議・指導職員会議・担任会議の毎月開催等により実習の状況や進路状況等重要事項について協議・情報共有を図った。 ・ 「農場施設管理運営部会」においては、7学科単位に専門職大側との打ち合わせを重ね、圃場及び機械・施設の利用調整のためのルール化に取り組んだ。 * 定例の校内の会議等で情報共有、意思決定を図ったほか、専門職大側と合計39回の打ち合わせを行う中で、農場、機械施設等利用上のルールづくりを進めることができたことから「B」評価とする。	B	・ 今後も、各種会議を開催する中で、職場内のコミュニケーションの円滑化を図るとともに重要事項の意思決定とその共有を図り、迅速な対応につなげていく。 ・ 圃場及び機械・施設等に関する専門職大との利用調整については、今年度確認されたルールを遵守しつつ、次年度以降も必要に応じて見直しを図りながら円滑な利活用に努める。
		② 職員間の情報共有【継続】 毎日の朝会において、各学科の実習取組状況や学生の状況等を把握するとともに、部門毎の6つの運営部会(農場施設管理運営部会、体育部会、文化・広報部会、環境美化部会、学生・寮生活指導部会、農大市場等運営推進部会)の取組みを把握し、日常の校務を効率的かつ確実に実施する。	・ 毎日開催する朝会において、各学科の実習や学生の状況等を把握するとともに、学科等横断の組織である運営部会の取組みを説明、共有することで、日常の校務を効率的かつ確実に実施した。		
3 県の重点施策等や社会情勢に対応した学校運営の取組み	(1) 学校評価: C以上100%	① 学校評価の実施【継続】 本校の運営方針は、本県の重要施策等に沿って進め、地域農林業を支える担い手の育成を第一義とする教育・研修に取り組むとともに、毎年度、農林大学校運営評議委員会の評価に基づき取組み内容等の改善を図る。	・ 運営方針1～5の全評価項目20のうち ・ A評価: 6 ・ B評価: 9 ・ C評価: 5 であり、基準を上回っていることから「B」評価とする。	B	・ 引き続き、本県の重要施策等を踏まえるとともに、運営評議委員会を開催しながら、地域の農林業を支える担い手育成に取り組む。  ・ 今後とも、学生が充実した学校生活を送れるよう、学生へのアンケート調査と学生会役員との打合せを実施し、課題の把握と改善を図っていく。
	(2) 学生の満足度: 80%以上	② 学生からの評価の実施【継続】 学生による学習及び生活等の満足度に関するアンケートを実施し、これに基づいた改善を実施する。	・ 全学生を対象として、日頃の学習内容や寮生活、学生会活動、サークル活動等に関するアンケート調査を8月と2月に実施した。 ・ 「農大に入学して良かったか」の設問に対する学生の回答で、5段階評価の4以上の割合が85.7%となるなど、概ね高い満足度が得られている。 ・ アンケート調査に基づき、改善が必要な案件については、学生会役員等との打ち合わせを行い、改善を図った。 * アンケート調査が、目標の80%を上回ったことから、「B」評価とする。		

自己評価	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>教育手法等に関する研修会や公開授業は、活発な意見交換が行われることで、職員の指導力向上に繋がった。</li> <li>学生の授業や寮生活での様子等を担任会議等で情報共有しながら、教務学生担当と担任が連携して学生指導にあたるなど、各種会議等を通じて職員間のコミュニケーションを取りながら進めている。</li> <li>学生に対し年2回のアンケート調査を実施しながら改善を図ることで、学生の満足度向上に繋がっている。</li> <li>運営評議委員の意見を取り入れながら、県の重点施策に沿って効率的な学校運営を実施している。</li> </ul>	C

学校関係者評価	学校関係者の意見・要望等→次年度の改善策等	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>学生評価も含め運営方針が就農や就職、全国発表会の実績、地域課題解決・提案等に繋がっている。</li> <li>林業分野において、職員の積極的な取組みは大いに評価できる。引き続き良い人材を育ててほしい。</li> <li>学生の満足度が高い評価。各取組みの質の向上を図るうえで、積極的な公開や学生の声を聴く授業評価は今後も重視したい。</li> <li>海外研修がなくなったのは残念。ぜひ若いうちに海外を経験してほしい。</li> <li>公開されたユーチューブの動画をみると学生が非常に楽しんでいることが伝わり、農大に興味のある生徒等への後押しをしているようだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導職員の世代交代が進んでいることから、資質向上に向けた取組みが重要である。 → 職員の資質向上に向け、農大等職員対象の県外研修に派遣するとともに、普及指導員対象の技術研修に参加することで情報収集しながら指導に活かしていく。</li> <li>教育の質の向上を図るうえで、専門職大との連携、交流を活かした相乗効果に期待する。 → スマート農業関係の授業の講師役を、専門職大教授に依頼する等、専門職大、本校のそれぞれの特徴を活かし、互いに高め合えるよう取り組む。</li> </ul>	B